難易度★★★☆☆

ご利益 病気平癒 勝運 厄除

ほうきだいせん

伯耆大山

ブナの森の上にそびえる山そのものが御神体として崇められている、秀麗な山容と野性的表情を兼ね備えた中国地方最高峰を歩く

▲ブナの森をたどって伯耆大山の頂上をめざす

標高1729m
鳥取県

歩行時間
約4時間30分

標高差
950m

問合せ先
鳥取県観光連盟
☎0857-39-2111
鳥取県文化観光局観光政策課
☎0857-26-7218

登山適期
4月中旬～10月

伯耆大山は、昔から神おわす山として多くの人たちの信仰を集め、中国地方一の霊峰といわれてきた。『出雲国風土記』の国引き神話では「火神岳」「大神山」と呼ばれた伯耆大山が、縄を引っ掛けて島根半島を引き寄せたとある。山岳信仰の山として最盛期には三院百八十坊、僧兵三千と称される信仰の山として栄えたが、寺院間の争いが絶えず次第にその力は衰えていったという。現在は、山腹に大己貴命（おおなむちのみこと）を祀る**大神山神社奥宮**や**大山寺**（鳥取県西伯郡大山町）**阿弥陀堂**などがある。大神山神社奥宮に祀られている大己貴神は大国主命（おおくにぬしのみこと）のお若いときのお名前。大国主命は国造りをしたことから、**産業発展、五穀豊穣、牛馬畜産、医薬療法、邪気退散**の神様として有名だ。

アクセス情報

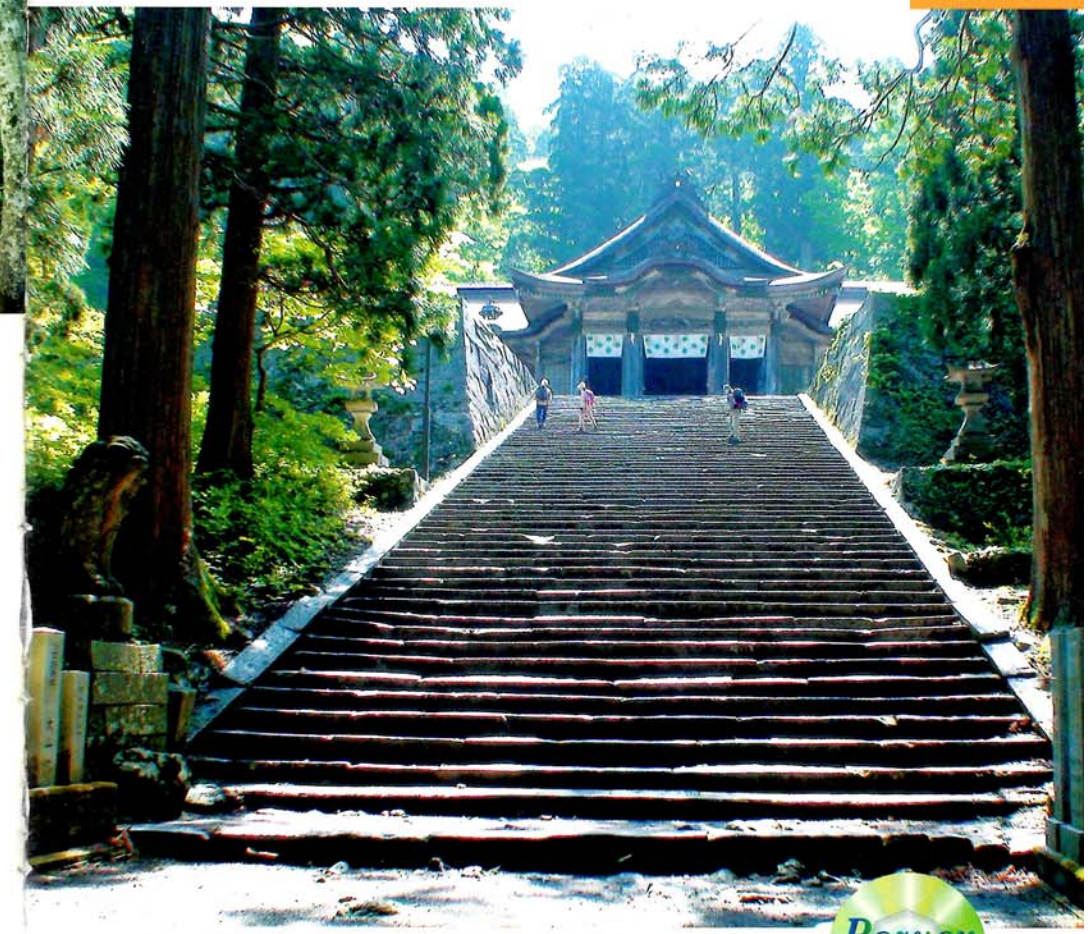
JR米子駅からバス利用で

往路　米子駅 → バス 50分 → 大山寺バス停

復路　大山寺バス停 → バス 50分 → 米子駅

ご利益行事

毎年6月の第1土・日曜日に夏山開き祭が行われる。前夜祭がある土曜日は、各種イベントの後、日が暮れると松明に火がともされ、光のウェーブが夏の夜に浮かび上がる。日曜日は山頂で登山の安全を祈願して10時から神事が厳かにとり行われ、その日に山に登った登山者には御神酒が振舞われる。



Power Spot

自然石の石段の上に鎮座する大神山神社奥宮

▲伯耆大山の山麓、深いブナの原生林中に大神山神社奥宮が鎮座している。伯耆大山を御神体とする大神山神社奥宮は、日本最大級の権現造りで両翼は50mもある。明治時代までもともとは大山寺として神仏混合だったので、現在は神社なのにお寺を思わせる様式が珍しい。大山寺は奈良時代に創建され、一時は三千人にもおよぶ僧兵を擁するなど、伯耆大山の麓で修験道の道場として栄えていた。大神山神社の御神体は伯耆大山そのもの。奥宮からは伯耆大山へと登る登山道が深いブナの森の中に延びている

▶大山寺から石畳の参道を上がったところに大神山神社奥宮がある。社殿は全国最大級の壮大な権現造りで、もともとは修験者が修験道場として簡単な遥拝所を設けるようになったのがはじまりとされている

▲はじめは深いブナの森を抜けて登山道にとりつく

コースガイド

ブナの森をたどって ダイセンキャラボクの繁る山頂へ

大山寺バス停-10分→夏山登山口-1時間→五合目-20分→六合目-1時間→弥山-40分→六合目-10分→行者谷コース分岐-25分→元谷-20分→大神山神社奥宮-15分→大山寺バス停

中国地方の山は概して、ゆるやかな起伏の穏やかな表情をしているが、唯一、伯耆大山だけは季節や見る方角により、みごとな富士山形をした秀麗な姿と野性的な険しい姿の両方を見せてくれる。そのため昔から人々の心を引きつけ、奈良時代には山岳仏教の霊山として、また修験の道場として崇められてきた。また、伯耆大山という山はなく、頂上は弥山で最高点は剣ヶ峰である。登山道はいくつかあるが、平成12年（2000）の鳥取地震で崩壊が激しく、弥山山頂から最高点の剣ヶ峰に続く主稜線は非常に危険なので立ち入らないようにしたい。

ここでは最も人気がある夏山登山道から弥山に登って、五合目から行者谷コースをたどって大神山神社奥宮を経由して下るコースを紹介する。

大山寺バス停から大山寺に向かう参道を行き、大山寺の石段の手前を右に曲がって、大山寺橋を渡って車道を進むと夏山登山口の案内板があり、ここから登山道に入る。僧坊跡が残っている杉木立のなか、重文阿弥陀堂を右手に見て石段を登っていくとやがて登山道らしくなってくる。登りにかかると、すぐに一合目標柱があり、ここから二合目、三合目と山頂まで15分から20分間隔ぐらいに標柱があるので歩行時間の目安にするといい。三合目標柱を過ぎるとブナ林のなかの横木の階段状の急登となる。夏山登山道は頂上に向けて直登していく尾根道なので、八合目までずっと急登がつづくことになる。

▼木段をあがって、だんだん傾斜が増した道を登る

登山道の傾斜がきつくなり、四合目標柱を過ぎるころから木々の間から展望が得られるようになってくる。五合目標柱からは日本海が望めるようになり、その上で大神山神社からの行者コースが左から合流してくる。このあたりからブナ林はなくなり、剣ヶ峰をはじめとする北壁の峰々が全貌を見せる。道幅の狭くなった灌木のなかの道を登っていくと避難小屋のある六合目に着く。小屋の前にはベンチや案内板があり、米子平野の向こうに日本海が広がる展望もすばらしいので、一休みしてここからの登りに備えよう。

六合目からの登りは階段状の急登がつづき、七合目標柱を過ぎて、剣ヶ峰も間近に見える八合目標柱を過ぎる。八合目あたりからは伯耆大山の頂上の一角で、コースには木段が現れダイセンキャラボクが繁るなかをたどる木道になる。山頂部に整備されている木道は特別天然記念物のダイセンキャラボクの約8ヘクタールにもおよぶ大群生地を保護するものなので、登山道から外れないように歩こう。

傾斜のゆるやかになった木道を進むと、前方に頂上避難小屋が見えてきて、まもなく弥山頂上（1711m）に到着する。

▲山頂には、広い木製の休憩所が設けられている

▼長さが約700mの自然石を敷きつめた参道

▶伯耆大山は見る位置によって富士山のような姿を見せる

▲残雪を纏って荒々しい表情を見せる北壁

山頂からの眺めはすばらしい。目の前に伯耆大山の荒々しい岩峰群が迫り、中国山地の山々や島根半島、苦労して登ってきた尾根道の先には、おおらかに広がる平野と日本海が望める。展望を楽しんだら下山にかかろう。

弥山頂上から木道をたどり、急坂を下って五合目手前の行者谷コース分岐までは往路を行く。分岐から右に行者谷コースに入る。急な木段を下り、ジグザグを切ってブナ林のなかを下る登山道を行くと、やがてブナ林をぬけて元谷の砂防ダムの上に出る。元谷から弥山、剣ヶ峰と連なる北壁を間近に仰ぐ眺めは迫力がある。

元谷からは、砂防堰堤にせき止められた砂礫のなかの踏み跡を進み林道に出る。林道から左手に下って佐陀川沿いに付けられた登山道を下っていくと大神山神社奥宮に出る。

ここ大神山神社奥宮のご祭神は、大己貴命（大国主命）。ご神体山は『出雲風土記』に「大神岳」と記された伯耆大山だ。平安時代に修験者が山の中腹に遥拝所を設けたのが大神山神社の創建とされている。しかし、大神山神社は冬季の積雪期には祭りを行うことが難しく、麓に近い平地に冬の神社が建てられ、これを冬に奉仕する神社という意味で「冬宮」と称し、山の中腹の神社を「夏宮」と呼んだ。神仏習合時代には、ご祭神である大己貴命の本地仏として地蔵菩薩を祀り「大智明権現」と呼ばれて大盛況となった神社である。その後、明治時代に大神山神社の冬宮は里宮（本宮）となり、山の中腹にあった大智明権現は「奥宮」を名乗ることになったという。

神社にお参りしたら、日本一長い石畳の参道といわれる参道を下っていけば大山寺バス停に到着する。

▶元谷から見上げる北壁は北アルプス涸沢からの穂高のようだ

立寄り情報

皆生（かいけ）温泉

白砂青松の海岸線と伯耆大山に近い皆生温泉は日本海に面した海辺の温泉郷。山陰の観光拠点としても人気の高い温泉は、明治33（1900）年に海岸に湧く湯を漁師が発見したのがはじまり。高級和風旅館が立ち並ぶが、日帰り入浴できる宿も多い。

DATA

皆生温泉旅館組合　☎0859-34-2888　日帰り入浴1000円～

大山寺・阿弥陀堂

大山寺に現存する寺院の中では最古の室町末期の建築物。本尊は、天承元年（1131）に大仏師良円により制作されたといわれる六丈(2.79m)の木造阿弥陀如来で、その両脇には観音と勢至の両菩薩も安置。建物、仏像とも国の重要文化財に指定されている。

DATA

☎0859-52-2158（大山寺）　境内自由、堂内は要予約　3～12月の毎月18日（9～16時に一般公開）、それ以外の日の堂内拝観は30人以下1組3000円

ご利益マップ